

げん ば お
 国指定史跡 **玄蕃尾城(内中尾山城)跡**

玄蕃尾城は、天正11年(1583)、賤ヶ嶽の合戦に際し、越前北ノ庄城主であった柴田修理亮勝家の本陣となった山城です。この戦いでは、勝家は戦わずしてこの城から撤退し、その後手つかずで残されたことから、山城の構造が合戦当時のままに良好に保存されています。

玄蕃尾城の名は地元の敦賀市刀根に伝わるもので、勝家配下の勇将・さくまげんばのしよつ もりまさ佐久間玄蕃允盛政に因むものとして、今日にまで語り継がれています。



玄蕃尾城 櫓台

天気よければ
 玄蕃尾様の
 城の太鼓の
 音がする
 霞はれてくれ
 わしらの主の
 玄蕃尾様
 山見えぬ

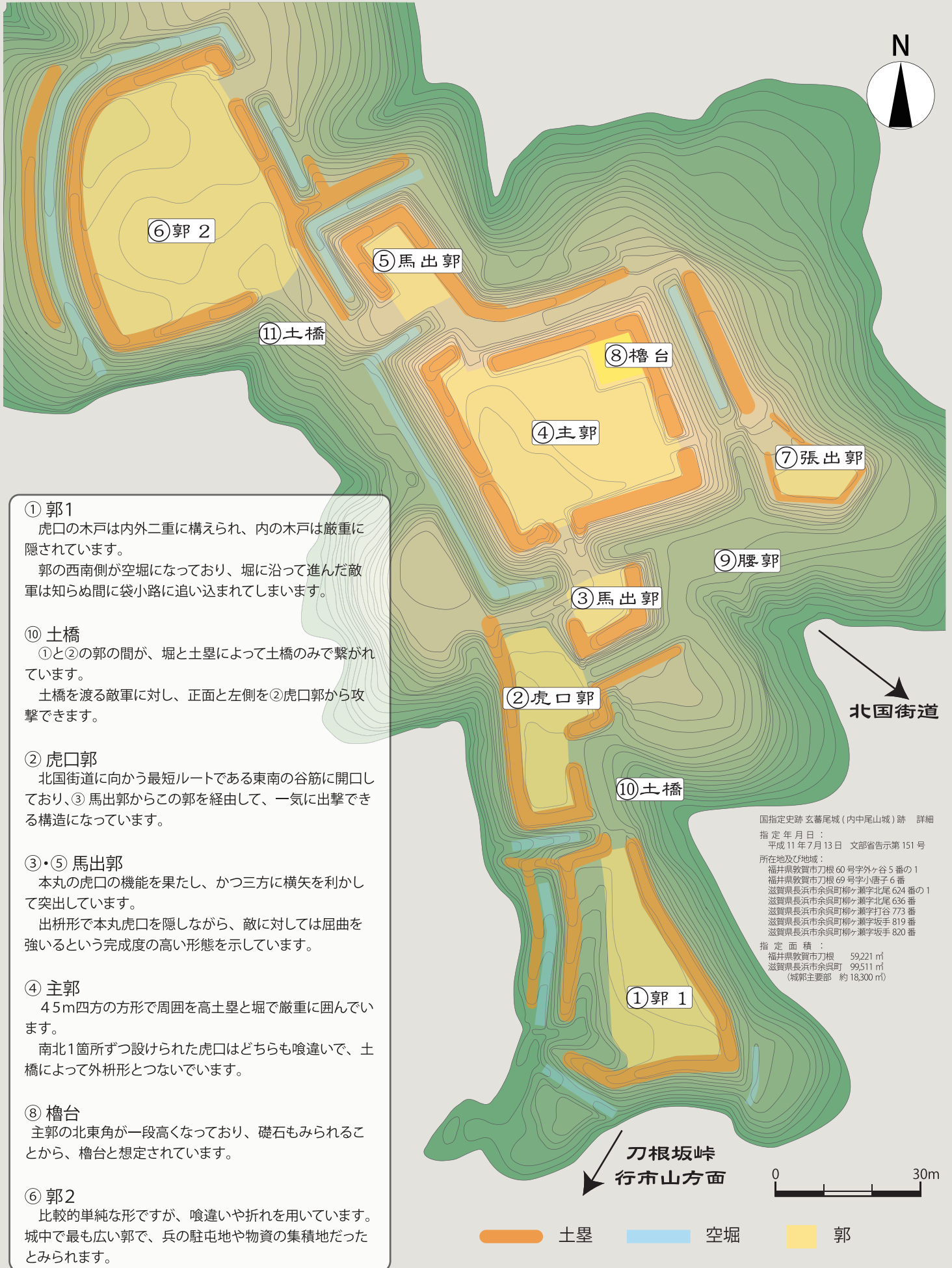
(刀根 気比神社の秋祭り
 餅搗ぎ歌より)

玄蕃尾城跡保存会
 敦賀市教育委員会

賤ヶ岳合戦の陣城配置図



玄蕃尾城 平面図



① 郭1

虎口の木戸は内外二重に構えられ、内の木戸は厳重に隠されています。

郭の西南側が空堀になっており、堀に沿って進んだ敵軍は知らぬ間に袋小路に追い込まれてしまいます。

⑩ 土橋

①と②の郭の間が、堀と土塁によって土橋のみで繋がれています。

土橋を渡る敵軍に対し、正面と左側を②虎口郭から攻撃できます。

② 虎口郭

北国街道に向かう最短ルートである東南の谷筋に開口しており、③馬出郭からこの郭を経由して、一気に出撃できる構造になっています。

③・⑤ 馬出郭

本丸の虎口の機能を果たし、かつ三方に横矢を利かして突出しています。

出柵形で本丸虎口を隠しながら、敵に対しては屈曲を強いるという完成度の高い形態を示しています。

④ 主郭

4.5m四方の方形で周囲を高土塁と堀で厳重に囲んでいます。

南北1箇所ずつ設けられた虎口はどちらも喰違いで、土橋によって外柵形とつながっています。

⑧ 櫓台

主郭の北東角が一段高くなっており、礎石もみられることから、櫓台と想定されています。

⑥ 郭2

比較的単純な形ですが、喰違いや折れを用いています。城中で最も広い郭で、兵の駐屯地や物資の集積地だったとみられます。

国指定史跡 玄蕃尾城 (内中尾山城) 跡 詳細

指定年月日：
平成11年7月13日 文部省告示第151号

所在地及び地域：
福井県敦賀市刀根 60号字外ヶ谷5番の1
福井県敦賀市刀根 69号字小樋子6番
滋賀県長浜市余呉町柳ヶ瀬字北尾624番の1
滋賀県長浜市余呉町柳ヶ瀬字北尾636番
滋賀県長浜市余呉町柳ヶ瀬字打台773番
滋賀県長浜市余呉町柳ヶ瀬字坂手819番
滋賀県長浜市余呉町柳ヶ瀬字坂手820番

指定面積：
福井県敦賀市刀根 59,221㎡
滋賀県長浜市余呉町 99,511㎡
(城郭主要部 約18,300㎡)

刀根坂峠
行市山方面

0 30m

土塁 空堀 郭